

# 主体的に学ぶ学習活動の工夫を取り入れた国語科の学習指導案

日 時 平成21年10月29日(木) 5校時

学 級 3年1組 男子17名女子18名 計35名

授業者 八重 檉 香 織

1 単元名 古典を楽しむ 君待つと一万葉・古今・新古今一

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、1年の「古典との出会い」2年の「古典に親しむ」から続く、古典教材であるとともに、2年の「豊かな言葉 短歌を味わう」、3年の「豊かな言葉 俳句の可能性」から続く、和歌の教材ととらえることもできる。

本教材では、三大歌集である「万葉・古今・新古今」の中から十七首の和歌を取り上げ、四季折々の豊かな自然を背景として繊細、華麗に詩情を歌い上げている。「万葉集」には日本人の素朴な感動が見られ、「古今集」には平安貴族の優雅な世界があり、「新古今集」にはさらに発展させた流麗典雅な調べとやさしく艶やかな美の境地が作り出されている。これらの歌に共通して見られる、山紫水明、古人の人を愛する心、生活の中の折々の感想などを味わわせたい。

また、二年で学習した短歌の三十一文字の句切れなどの短歌の特徴を想起させて、繰返し音読させてリズムを味わわせながら歌の意味把握に活用させていきたい。

古典の中でも和歌は五・七・五・七・七の独特のリズムがある。繰返し音読させ、和歌のリズムをつかませたい。音読については、言葉の響きやリズムを考えて、何度も音読させ古文特有の言い回しに読みなれさせたい。意味把握については、詳細の解釈に重点をおくのではなく、脚柱などを利用したり、現代語に置き換えたりすることで大意をとらえる程度に収め、鑑賞文に生かしたい。

(2) 生徒について

授業態度はまじめで、積極的に発言しようとする生徒も多い。隣同士や少人数グループで考えを述べあうこともできる。一斉読みの音読は大きな声で読む数人に引っ張られて声を出すことができるが、一人読みでは過半数が声が小さくなりがちである。また、内容の読み取りについては、根拠を明確にして読み取りをすることができない生徒が大半であり、想像力を働かせて考えを広げたり深めたりすることも苦手とする傾向にある。

今年4月に実施したNRTの結果によれば、本学級における国語の偏差平均(M)は、全体が55.0、男子52.8、女子57.1であり、標準偏差(SD)は全体が9.9、男子が9.7、女子が9.7という結果であった。また、学級全体を5段階に区分した場合、段階5が6人(17%)、段階4が11人(31%)、段階3が13人(37%)、段階2が5人(14%)、段階1が0人(0%)であった。さらに、5教科全体の傾向から、知能標準得点の偏差値平均(知能偏差値)は、学級50.9(男子49.4、女子52.3)で、全国基準値の50.0に比較して、統計的な有意差は認められず、全国基準値とほぼ同じであるとみることができる。5教科全体の標準偏差は、学級51.5(男子50.2、女子52.8)で、アンダー・アチーバー・ゾーンは4人(12%、男子2人、女子2人)、オーバー・アチーバー・ゾーンは4人(12%、男子2人、女子2人)、バランスド・アチーバー・ゾーンは26人(76%)となる。

本単元に関わる生徒の実態把握を主目的として実施(10月1日)した事前アンケートの結果をプラス傾向とマイナス傾向とに分析したところ、以下のような結果となった。

設 問 内 容	+傾向 (%)	-傾向 (%)
1 あなたは、国語の授業に「興味」があり、意欲的に取り組もうと思いますか。	71.9	28.1
2 あなたは、国語の授業で「音読」するとき、意欲的に取り組もうと思いますか。	62.5	37.5

3 あなたは、国語の授業の学習内容がわかりますか。	71.9	28.1
4 あなたは、国語の授業の「予習」をしていますか。	12.5	87.5
5 あなたは、国語の授業の「復習」をしていますか。	56.2	43.8
6 あなたは、文章や語句、表現から「イメージを広げて」みるがありますか。	56.2	43.8
7 あなたは、「古典の授業」に興味があり、意欲的に取り組もうと思いませんか。	37.5	62.5
8 あなたは、「古典」の基礎事項（歴史的仮名遣い・主語の省略など）を知っていますか。	28.1	71.9
9 あなたは、「和歌・短歌」に興味がありますか。	43.8	56.2
10 あなたは、「和歌・短歌」の意味を知りたいと思いませんか。	46.8	53.2

この結果を見ると、国語の学習に興味を持ち、意欲的に取り組もうとしている生徒が70%以上に達し、比較的高い傾向が見られる。また、学習内容を理解していると回答した生徒の割合も70%以上と高く、国語の学習全般に対する興味・意欲や、理解度は比較的高い傾向にある。

ところが、学習内容が本教材「古典」「和歌・短歌」に限定されると、すべての項目でマイナス傾向となり、特に授業の興味・意欲については60%以上、基礎事項などの知識については70%以上と、その傾向が著しい。

これは、「古典」の基礎事項がしっかりと定着していないこと、国語に関して家庭学習の意識が著しく低いことが大きな要因と考えられる。そこで、本教材では、「古典」の基礎事項の定着をはかるために、比較的意欲の高い傾向にある音読活動を中心として古典に親しませるとともに、毎時間ミニテストを取り入れ、継続的に家庭学習が取り組めるようにしていきたい。

### (3) 指導・支援について

この単元では、古典や和歌の基礎知識を身につけ、音読でリズムを楽しみながら、昔の人の自然や人に対する思いや考えをとらえ、古典を楽しむことをねらいとしている。そこで、1時間目には、古典の基礎・基本を想起させ、作品の概要を理解させ、全作品を音読しながら、作品に慣れさせたい。そのあと、「万葉集」、「古今集」、「新古今集」と、それぞれの歌集ごとに作品の情景や心情を深く読み味わわせたい。

本時は、音読を中心として展開し、和歌のリズムに慣れ親しみながら情景や心情のイメージをふくらませていきたい。音読の場面では、具体的なポイントをいくつか提示し、意識化させてから活動に入らせたい。また、大意をつかむ場面では、情景や心情のイメージを膨らませるポイントをあらかじめ提示することで、自分なりの根拠をもって読み取りをさせたい。

## 3 単元の目標

- (1) 歌の世界を読み味わう楽しさをとらえさせ、進んでさまざまな古典の作品に親しもうとする態度を育てる。 【関心・意欲・態度】
- (2) 「万葉集」「古今集」「古今和歌集」の代表的な和歌を詠み、古語の定型のリズムによって歌いだされる昔の人のものの考え方や感じ方をとらえ、好きな和歌を選んで鑑賞文をまとめることができる。 【読む】
- (3) 発音や言葉遣いの違い、効果的な表現や仮名遣いなどに注意しながら朗読し、それぞれの和歌の特徴をまとめることができる。 【読む・言語】

## 4 指導計画

- (1) 「万葉・古今・新古今」の概要を理解し、特徴をまとめる。 . . . . . 1時間
- (2) 「万葉集」を音読し、歌に詠まれている情景や感情を読み取る。 . . . . . 2時間
- (3) 「古今集」に詠まれている情景や心情を読み取り、音読に生かす。 . . . . . 1時間(本時4/5)

(4) 「新古今集」に詠まれている情景や感情を読み取り、鑑賞文を書く。・・・1時間

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
和歌の世界を読み味わう楽しさをとらえさせ、進んで作品に向かおうとする。	「万葉・古今・新古今」の語調や定型のリズムを生かして音読する。	好きな和歌を選んで鑑賞文をまとめる。	「万葉・古今・新古今」の代表的な和歌を詠み、昔の人のものの見方や感じ方をとらえる。	発音や言葉遣いの違い、効果的な表現や古文の仮名遣いなどに注意しながら朗読する。

6 本時について

(1) 本時の目標

- ア 「古今集」の語調や定型のリズムに注意し、正しくはっきりと音読できる。【読む】
- イ 「古今集」の和歌に詠まれている情景や心情を読み取る。【読む】

(2) 手立てを入れた指導・支援の構想

本研究において、国語科における「主体的に学び、基礎・基本の確実な定着が深まった姿」を次の3点ととらえた。

- ア 内容に合わせた工夫をした音読や発表ができる。(話す能力)
- イ 自分の考えを、条件に沿って文章として書くことができる。(書く能力)
- ウ 根拠をもって文章を読み取り、自分の考えを深めることができる。(読む能力)

そこで本時は、「ア 内容に合わせた工夫をした音読や発表ができる。(話す能力)」に主眼を置き、音読を中心にして進めていく。音読のポイントを大きな声で正しく区切って読むというレベルから徐々にステップアップさせ、本時の終わりには内容の理解のもとに朗読できるようにさせたい。内容の読み取りや定着のために適宜学習シートを活用し、基礎・基本の確実な定着も目指したい。

具体的な展開としては、授業前には学習用具の準備を行い「**ベル席を守る**」、学習課題の提示で学習の見通しをもたせ「**集中して聞く**」、積極的に音読したり、作品の内容にじっくりと向き合って内容を読み取って発表したりしながら「**自分で考える**」「**進んで発表する**」課題解決へと向かわせたい。学習の振り返りでは、お互いの意見の交換や学習シートなどによる基礎・基本の定着を図りたい「**わかる・できる・認め合う**」。学習の流れの中で、常に学習五訓を意識させることで、主体的に学ぶ態度がさらに身につくと考えている。

(3) 具体的評価規準

観点	A：十分満足できる	B：概ね満足	C：努力を要する生徒への手立て	評価の方法
【読む能力】	和歌の意味を生かした工夫を取り入れ、「古今集」の語調や定型のリズムに注意し、正しく音読できる。	「古今集」の語調や定型のリズムに注意し、正しくはっきりと音読できる。	読みを間違えたり、声が小さく、リズムよく読めない生徒には、五七五七七の切れ目に線を引かせる。	和歌を朗読する場面
	注釈や教師の説明を手がかりに、和歌のイメージを膨らませて情景や心情をとらえ、作者の感動を読みとることができる。	注釈や教師の説明を手がかりに、和歌のイメージを膨らませて情景や心情をとらえることができる。	イメージを膨らませるポイントとなる言葉を具体的に示し、補足説明する。	和歌の情景や心情をとらえる場面

(4) 展開

段階	学習内容と 学習五訓	生徒の活動	指導・支援の方法、留意点
7分	<p>「ベル席を守る」</p> <p>1 既習事項の想起 2 音読</p> <p>3 本時学習課題の確認 「集中して聞く」</p>	<p>◎学習用具を準備する。</p> <p>◎「古今集」の特徴を想起する。 ◎ 教師の範読に続いて音読する。 ◎和歌の情景や心情を読み取り、それを生かした朗読をすることを理解する。</p>	<p>・学習環境の整備</p> <p>○時代や主な特徴をノートを見ながら確認する。 ○音読のポイント ・読み間違えない。 ・五・七・五・七・七のリズムがわかるように読む。 ・大きな声ではっきり読む。</p>
7分	和歌に詠まれている情景や心情をとらえて朗読をしよう		
38分	<p>4 四首の和歌の作者の心情や情景をとらえ、大意を把握する。 「自分で考える」 「進んで発表する」</p> <p>5 好きな和歌を一首選び、読み取った情景や心情を朗読に生かす。 「自分で考える」 「進んで発表する」</p>	<p>◎一首ずつ取り上げる際、繰り返し音読する。 ◎ポイントを参考に情景や心情をとらえ、大意を把握する。 (1) 人はいさ心も知らずふるさは花ぞ昔の香ににほひける 季節、場所、対比（人と花）、係り結び、句切れ (2) しら露の色はひとつをいかにして秋の木の葉をちぢにそむらむ 季節、対比（色と数） (3) 思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせばさめざらましを 恋愛、句切れ (4) 飛鳥川淵は瀬になる世なりとも思ひそめてむ人は忘れじ 恋愛、対比（世と作者）、句切れ</p> <p>◎朗読CDを聴いて、強弱・速さ・間の取り方を学び、和歌の情景や心情を味わう。</p> <p>◎好きな和歌を一首選び、情景や心情に合った朗読の工夫を考える。 ◎朗読の工夫が伝わるように練習する。 ◎二人組で発表、評価しあう。</p>	<p>○音読のポイント ・繰り返し音読することで意味の切れ目や内容を把握させる。 ○学習シートを使って大意を把握させる。 ・ポイントを絞って情景や心情を考えさせる。 ・句切れ、係り結び、対比などもおさえる。</p> <p>○朗読CD ・読み手によって、強弱・速さ間の取り方が違うことを気づかせる。</p> <p>○朗読の工夫カード ○評価のポイント ・朗読の工夫をした箇所と方法をはっきりと伝えられたか。 ・朗読の工夫が表現できていたか。</p>
5分	<p>6 本時の学習内容をまとめる 「わかる・できる・認め合う」</p> <p>7 次時の内容確認</p>	<p>◎数名の生徒の発表を聴く。</p> <p>◎次時は「新古今」を読み取り、鑑賞文を書くことを知る。</p>	

(5) 本時の評価

ア 「古今集」の語調や定型のリズムに注意し、正しくはっきりと音読できたか。【読む】

イ 「古今集」の和歌に詠まれている情景や感情を読み取ることができたか。【読む】

(6) 板書計画